



◆生育状況については果樹総合情報を参照

◆当面する重点作業について

1. 剪定の見直し、若木等の誘引、日焼け防止対策は、開花前に終了させる。
2. 発芽前の薬剤防除実施が、遅れないよう注意する。
3. 圃場が乾いてきたら、かん水を実施する。

◆開花期のかん水について（花器・若芽・新根は蛋白質と水分で育つ）

開花、結実、幼果肥大のエネルギー源は、貯蔵栄養(散布液肥)と土壌水分です。
受粉しやすい良い花を咲かせるには水分が必要です。
特に開花前は「乾いているな」と思ったら、積極的にかん水を行う。

◆長野県果樹試験場の発芽状況について

品目	平年	令和6年	令和5年
杏 信州大実	4/6	4/7	3/25
すももソルダム	3/30	3/28	3/17

《プルーン・すもも》

◆スタンレイ生育状況について

品目	平年	令和6年	令和5年
発芽	4/7	4/4	4/2
開花始	4/6	4/15	4/4

◆第1回薬剤散布について

1. 散布時期: 発芽前 散布日 月 日
2. 調合量: 水95ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10mℓ	—	—
石灰硫黄合剤	5ℓ	越冬病虫害	発芽前

3. 散布量: 10a当り=350ℓ以上

4. 留意事項

- ①ふくろみ病の発生が心配される園は、石灰硫黄合剤を10倍(水90ℓ当り10ℓ)で使用する。
- ②発芽してしまった場合は、薬害防止のため、石灰硫黄合剤に代えて、トレノックスフロアブル 500倍(水100ℓ当り200mℓ・年3回まで)を使用する。

◆黒斑病の特別薬剤散布について

- すももで発生が多い、黒斑病の発生が昨年までに発生が多かった園は実施する。
- 1.散布時期:発芽前 散布日 月 日
- 2.調 合 量:水97ℓ 当り ※混用順に記載。
- | 農薬名 | 使用量 | 対象病虫害 | 収穫前 |
|-----------------|--------|-------|-----|
| I C ボルドー 4 1 2 | 3kg | 黒斑病 | — |
| 固着性展着剤K. Kステッカー | 3 3 mℓ | — | — |
3. 散 布 量:10a当り=350ℓ以上
4. 留意事項
- ①固着性展着剤 K.K ステッカーに代えて、固着性展着剤アビオン E1,500 倍(水 100ℓ当り 66mℓ)を使用してもよい。この場合、最初に調合する。

《あんず》

◆年間わら巻き(胴枯れ病対策)の実施について

毎年、胴枯れ病により枯れる樹がみられるので、被害の多い地帯では年間を通してワラを巻き、被害を軽減する対策を実施する。

◆第 2 回薬剤散布について

- 1.散布時期:開花直前 散布日 月 日
- 2.調 合 量:水100ℓ当り ※混用順に記載。
- | 農薬名 | 使用量 | 対象病虫害 | 収穫前 |
|-------------|---------|-------|-------|
| 固着性展着剤アビオンE | 6 6mℓ | — | — |
| ムッシュボルドーDF | 2 0 0 g | かいよう病 | 葉芽発芽前 |
| ロブルール水和剤 | 6 6 g | 灰星病 | 3 日 |
3. 散 布 量:10a当り=300ℓ以上
4. 留意事項
- ①アビオンEに代えて、固着性展着剤K. Kステッカー3,000 倍(水 100ℓ 当り 33mℓ)を使用してもよい。ただし、最後に調合する。

《な し》

◆当面の技術対策について

1. 枝の誘引作業を丁寧に実施し、樹形を整える。
2. 胴枯れ病・ふらん病は見つけ次第削り取り等の処置を実施する。剪定後の切り口の保護と合わせてトップジンMペースト又はバッチレートを塗布する。

◆第1回薬剤散布について

1. 散布時期: 発芽前 散布日 月 日
2. 調 合 量: 水88ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ス プ レ ー オ イ ル	2ℓ	ハダニ類・カイガラムシ類	発芽前
石 灰 硫 黄 合 剤	10ℓ	越冬病虫害	発芽前

3. 散 布 量: 10a 当り = 棚栽培300ℓ / 立木栽培350ℓ
4. 留意事項

- ①カイガラムシ類発生園は、重要な防除となる。樹冠内部や主幹部にも十分薬液が掛かるよう実施する。
- ②スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル 50 倍（水 88ℓ 当り 2ℓ）を使用してもよい。

◆日本なしの芽すぐり実施について

1. 目的と効果

- ①充実した花芽を残して揃えることが良い果実の生産につながる。
- ②開花に無駄な養分を使わないことにより初期の玉肥大の向上につながる。
- ③摘果作業の省力になる。
- ④「芽たたき」より作業期間があり、凍霜害の危険も少ない。
- ⑤開花時の農薬散布がかかりやすくなる。

2. 残す程度

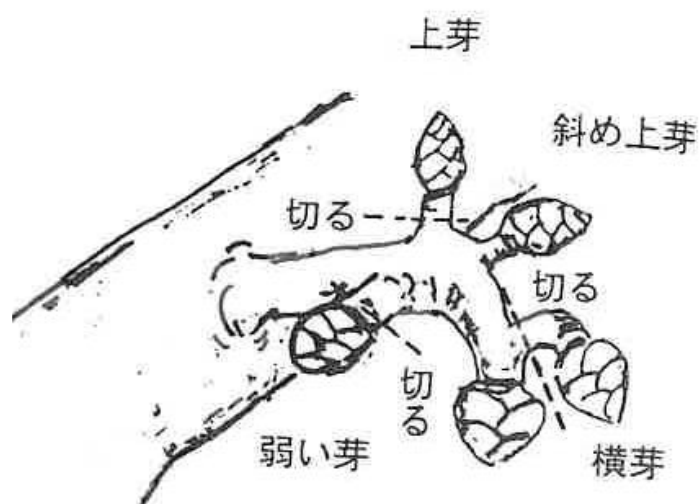
短果枝が生姜芽のように固まっているような場所は、充実した芽を1～2芽残して他の芽はせん除する。

短果枝群は片側15cm間隔で残す。横向きか斜め下向きの短果枝群を残し、上下は取り除く。

上向きに発生している短果枝群を残すと逆さ実になり、下向きは小玉になりやすい。

3. 選ぶ芽（図参照）

上に向いた芽・力の弱い下芽は原則としてすぐり、横芽・斜め上芽を主体に残す。
芽が無い場合は下芽を残してもよい。



《オウトウ》

◆第1回薬剤散布について

1.散布時期:発芽前(3月中下旬頃) 散布日 月 日

2.調 合 量:水97ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
ス プ レ ー オ イ ル	3ℓ	カイガラムシ類	発芽前

3. 散 布 量:10a当り=300ℓ 以上

4. 注意事項

①スプレーオイルに代えて、ハーベストオイル 50 倍(水 98ℓ当り 2ℓ)を使用してもよい。